

平成26年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[著作権法]

出版社Aは、その出版する月刊誌に、大物政治家Bのインタビュー記事 α を掲載した。 α は、A社の社員CがBの事務所の応接室でBにインタビューし、その内容を雑誌記事にふさわしいものとなるよう構成して作成したものであり、掲載前に、CはBに α のゲラを見せて内容に誤りがないか確認をとっている。Bがインタビューに応じる様子は、A社に依頼されたフリーランスのカメラマンDによって撮影され、その写真が α に添えられていた。その中には、Bが扇子を広げて笑顔で熱弁をふるう姿を写した写真 β も含まれていた。これを前提に、以下の問いに答えよ。

- (1) Bの事務所の応接室の壁には、有名な書家EがBに頼まれてしたためた^{きごう}揮毫 γ が額装されて飾られていた。 β には、インタビューに応じるBの背後に、 γ が小さく写っている。A及びDの行為は、Eの著作権法上の権利を侵害するか。
- (2) Bの政治的な立場に批判的なFは、 α の文章を自らのブログにそのまま全文掲載した。ブログに掲載された α の前には、「Bのインタビュー記事が月刊誌に掲載された。」という文章が、後には、「いつものことながらBの言うことは信用できない。」というコメントが付されている。Fの行為は、誰のいかなる著作権法上の権利を侵害するか。
- (3) Bは企業から巨額の賄賂を受け取った容疑で逮捕された。写真等のコラージュの手法により世相を鋭く批判する作品で知られるアーティストGは、政治の腐敗を風刺する目的で、 β を加工した作品 δ を創作した。 δ では、 β に写った扇子が紙幣に置き換えられ、Bが紙幣の扇子をあおいで満面の笑みを浮かべているかのように加工されており、背景も紙幣が紙吹雪のように舞うモチーフに変更されていた。Gの行為は、誰のいかなる著作権法上の権利を侵害するか。

【100点】